



萌木

5月号

～自尊・立志・感動～



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和3年5月6日発行

自助・共助・公助

校長 山田 勝

新型コロナウイルス感染拡大に伴うまん延防止等重点措置並びに緊急事態宣言の発出により、日々新たな対応へのご理解ご協力いただきまして、ありがとうございます。

また、感染対策を行ったうえでの全校保護者会・部活動保護者会への参加、ありがとうございました。

4月24日は、「調布市防災教育の日」でした。引き取り訓練や避難所体験はできませんでしたが、今できる活動の中で、生徒たちにも「防災」について考える一日とすることことができました。

「命」をテーマとした道徳では、どの生徒も真剣に命について考えました。かけがえのない命を慈しみ、大切に大事にしようという思いを、改めて自分の心に沁み込ませてくれたと思います。

「避難訓練」でも放送・先生の指示をしっかり聞き、真剣に訓練に取り組んでくれました。避難訓練の校長講評では「自助・共助・公助」について触れながら話をしました。

「自助」は、自らの命を守るための行動・役割です。

災害時に、一人一人が自分勝手に違う方向に避難しては新たな災害を生んでしまう「パニック」を起こすことになります。避難経路を確認し、避難指示をしっかり聞き行動する、そのように行動することが自分の命を守ることにつながる「自助」になります。

「公助」は行政、市役所や消防署などが避難所を開設したり、被災者を救護するものです。

そして「共助」は、地域の命を地域の力で守るための取り組みです。

地域の人、隣の人と互いの命を助け合う取り組みで、できることをできる人が担います。公助がくるまで、自分たちで命をつなぐために力を出し合って、助け合う姿勢が「共助」です。

毎日の時間に発災があったとき、調布市のような住宅地では自宅から遠い勤務地に多くの人が出ています。そこで、地域で学ぶ中学生の力が重要となってきます。中学生の自分が地域のためにできること、お年寄りへの声掛けや避難所への誘導、物資の運搬など何かできることで、地域防災の担い手となることが期待されています。

いざ災害が発生したとき、自分はどのように行動するのか、行動するべきなのか。自分の力で何ができるのか、何を期待されるのか。自分の行動で誰をどのように守ることができるのか、逆に自分の行動が周りにどのような影響を与えるのか。そのようなことを考え確認する機会にできることが、調布市防災教育の日の在り方の一つと解釈してもよいと思います。

新型コロナウイルスまん延下の現在、地震などへの災害への心構えと通じるものがあると感じました。緊急事態宣言やワクチンなどの公助、マスクや手洗い、三密回避の共助、自制し自律する自助。公助が来るまでの間、地域の中で共助、自助に取り組み自らを助ける行動が大切なだと改めて感じます。そのような視点で現状を考えると、感染防止に向け日々取り組んでくださっている医療関係従事者をはじめとした皆様に感謝と期待の気持ちを抱きつつ、今自分にできることにしっかり取り組んでいこうと思います。

七中生は、今日考えたことのうち何を自分の中に取り入れてくれるのでしょうか。経験を通し考え感じたことを吸収し成長する七中生であってほしいと思います。

4月22日付プリントで体育祭開催の変更につきましてお知らせしました。日程の変更に加え、非公開での実施となり参観をご遠慮いただくことなど保護者の皆様にもご負担をおかけします。ご理解ご協力をお願いします。日々、予定のつけづらい中です。今後の変更など連絡につきましては、安全安心メールも活用してお知らせします。登録や変更がお済でない方は、手続きをお願いします。